



WEBにも掲載しています

大崎第一
地域ニュース



はなぐるま

第176号

2025.4.20 発行

編集 はなぐるま編集委員会
〒141-0031 品川区西五反田 3-6-3 TEL:3491-2000
sakilc@city.shinagawa.tokyo.jp FAX:3491-2002
発行元 大崎第一地域センター

かるたに見るわが街、しながわ⑦

品川区には「しながわ歌留多」「品川ふる里かるた」の二つのかるたがあります。

今号では、区内全般の歴史や文化を対象としている「しながわ歌留多」を紹介させていただきます。



⑨ しながわ歌留多
海苔養殖 今は埋め立て オフィス街

品川区の漁業者が海苔の養殖方法を発明したことをきっかけに、18世紀になると品川から大森沿岸で海苔養殖が行われるようになりました。当初は「品川海苔」という名称で売り出していましたが、浅草の海苔問屋に多く収められたことから次第に「浅草海苔」の名で全国に知られるようになりました。

昭和初期に海苔養殖網が普及するまで、「ヒビ」と呼ばれる小枝の多い木や竹を海中に立て、海苔の胞子をつけて成長させていました。育てた生海苔を摘み取った後は、こみを取り除くために海水で洗います。そして、細かく切り刻んだ生海苔を簾に掛け、天日干しにして乾燥させます。海苔養殖で使われていた道具は、品川区の指定文化財となっています。

昭和30年には品川の方の生産量が約9,500万枚に及びましたが、工場排水による水質汚染や、東京湾の埋め立て事業の進展などの近代化の波の中で衰退していききました。その後、昭和37年に漁業権が放棄され、品川の方の海苔養殖の歴史は幕を閉じました。

(編集委員 古郡)



⑨

海苔養殖
今は埋め立て
オフィス街



⑩ しながわ歌留多
地ビール「を」 最初に造った 品川区

はなぐるま第151号(2021年2月20日発行)に「あでやかなおいらん道中花の街」の句から始まった特集ですが、本号掲載の21枚目をもって終わりとなります。

日本で最初のビール工場(官営)があった街 品川

明治2年、現在の品川区は品川縣という行政区画に含まれていました。困窮している一部の縣民を助けたいと当時の古賀定雄(一平)知事が思いついたのが、麦酒づくり。現在の東大井3丁目にあった松平土佐守下屋敷跡に縣堂麦酒製造所を設立し、麦酒の醸造を始めましたが、当時の日本人の口に合わず、販路開拓に苦戦。明治4年の廃藩置縣、第一次府県統合で品川縣が廃止されるのを機に、2年で麦酒造りから撤退したようです。詳細が明らかではないため、幻のビール工場と言われており、正式な日本最初の麦酒製造所は、同じく明治2年に横浜外国人居留地に設立された「ジャパン・ヨコハマ・フルフリー」となっています。

その幻のビールを地域の方々が中心となって平成18年に復刻させたのが、現在の「品川縣ビール」です。とぶろくから発見された日本最古の酵母「エド酵母」を使ったビールを研究していた秋田県田沢湖ビールさんに協力を依頼し、可能な限り明治初期の条件でつくり、試作を繰り返したそうです。

品川にこだわり、製法にこだわり、酵母にこだわってできた「品川縣ビール」。どうぞ興味いただき、明治維新の頃の品川に思いを馳せてみてください。

(編集委員 外山)



⑩

地ビール「を」
最初に造った
品川区

大崎第一地域センターでは、「はなぐるま」のほかにも SNS やサイトで、地域の様々な情報を発信しています。ぜひご覧ください！

※後日、地域共創メディア「大崎×五反田 LINK」にカラーの記事が掲載されます。



X (旧: Twitter)
@osakidai1



Instagram
osakidai1



大崎×五反田 Link
OSAKI×GOTANDA LINK

地域共創メディア
『大崎×五反田 LINK』

